

足立健康友の会

かばら支部ニュース

第28号
2010年11月18日
☎: 3605-5594
<http://kabara-tomonokai.kenwa.or.jp/>

かばら健康まつり大盛況 舞台と客席で合唱響かせる 4百余参加

10月24日(日)、第24回「蒲原健康まつり」が、秋空のもと5百名近い参加者で賑いました。

今年の「まつり」は4回の実行委員会を経て、地域・友の会・職員の交流に重点を置いた催しにしよう！の呼びかけの下、これまでの「まつり」とは違った工夫を凝らしての開催です。

模擬店は10時開店、演芸の広場は10時30分開演としました。

9時20分前には品定めするお客さまも押しかけて、足立土建綾瀬分会の包丁研ぎには既に長蛇の列が出来ました。

今回は2階・3階フロアーに分散させないで、すべての催しを1階スペースに集中させました。その代わり休憩スペースは「演芸の広場」に設け、好きな食べ物、飲み物を口にしながら、出演者の出し



物をゆつくり御覧頂く趣向です。これまでの「まつり」は、外の模擬店にぎやかでも、演芸広場は閑散としていて、折角の出し物が参加者の目も触れられずに終わる状況もありましたので、今年の広場は、模擬店で買い求めたものを食べながらゆったりと出演者の出し物を楽しみました。「こもれば」

のコーラスでは皆さんが知っている歌をみんなで歌う交流の場となりました。

最後のお楽しみ抽選会は超満員です。景品は、1等—電気ブレート 1本。2等—青森りんご1箱 3本。3等—潤いティッシュ5箱入り 10本。等々。生活応援の気持ちから日用品64本準備しました大いに盛り上がり、喜んでいただけたかと思えます。

毎年思うことですが、友の会役員を始め地域の方々・諸団体のご厚意に感謝するとともに、「健康まつり」を通じて、蒲原の地に根ざした安心・健康な町づくりを一緒に進めていきたいと改めて思いました。

大脇 診療所事務長

社会保障の充実求める

10・21国民大集会

10月21日国民集会に参加(友の会3名)。社会保障を大幅に増やし、医療・介護の拡充を求める国民集会(日比谷野音)に雨の降りしきる中5000名が参加しました。

主催者の日本医労連田中委員長は、「広がる世論と協同を成果に結びつけるのは私たちの運動だ」安心



できる医療を築くために頑張ろうと呼びかけました。医療・介護の現場からの発言、「夜勤回数が増えた」「医師・看護師の増員を」「介護職場、介護制度の改善は進んでいない」と訴えがありました。タレントの山田邦子さんがエールを送りました。①医療費を先進国(OECD)並みに確保し、社会保障制度の拡充を、②医師・看護師・介護職員を大幅に増やし、地域医療の確保を、③患者・利用者負担を軽減し、安全・安心の医療・介護の充実を——の3点を国に求めるアピールとして確認しました。

担当 池田 國夫

看護・介護の相談会

いつ 毎月、第3木曜日10時
どこで 小児科診察室
普段、受診しても先生と相談する時間がなく困っていること・わからないことなど相談ができます。

12月は16日10時

特定健康診断(足立区健診)

成人病予防と健康チェックのため無料で実施しています。実施期間が1月末まで延長されたので、ぜひ受診して下さい

訃報

長年、友の会かばら支部役員として活躍をして来た木原賢一さんが11月6日午後、入院先のみさと健和病院でお亡くなりになりました。ご家族の皆さんへ哀悼の気持ちをお伝えすると同時に、故人の生前のかばら支部への貢献に感謝しご冥福をお祈りします。

丘全体がコスモスの花・花

昭和記念公園紀行 歩こう会 9名

第六回かばら歩こう会は、秋風
かおる中、花を求めて昭和記念公
園まで行ってきました。

初参加者四名と常連五名が西立
川駅に降り立った。六五歳からシ
ルバー料金で、九名中八名該当。
嬉しいのか、かなしいのか、笑顔
だけが印象的。公園に入るとすぐ
前が広い池で、散歩道には枯れ枝
や古木でいろいろなモニュメント
が飾られハートや、サッカークラ
人たちの姿は、大テーマパークよ
り素朴でシンプルで、感動的でした。



池のほとりで、まず昼ごはん
を食べ、初参加者とすぐに仲良く
なり、さすがシルバー友の会。平
日にもかかわらず、歩道には沢山
の同じような仲間が、続々歩いて
いて、皆楽しそうで、静かです。子
供ずれの若夫婦、その横をシルバ
ー夫婦も歩く、歩く。ここから非
日常の世界に入りました。季節は
十月、曇りでしたが、上着はいら
ず、快適に歩きました。やがて広
大な芝生の大地が広がり、その先
に色鮮やかに花の群れが目飛び
込んできました。コスモスの大群
落にたち止まり、カメラに夢中にな
り、その光景は嬉々として、日
常の友の会員とはまったく違う姿
でした。花がなぜ美しいのか、人
はなぜ歩くのか。自然がなぜ人間
的なのか。コスモス咲き乱れる、
お花畑で、身近のことは忘れ、今
一緒に歩いている皆の笑顔が幸せ
そう、輝いているのが、素敵で
した。

最後に寄ったコスモスの丘は、



丸ごと一丘コスモスだけで、どう
にも表現しようもなく、あきれ
ぐらい、花、花、花で圧倒的でした。
花を美しいと感じる人間たちに
乾杯。
田中 英人

中川班云

お茶とおしゃべりの会

十月二十六日(火)午後一時半か
ら三時半ぐらいまで、会役員の清
水さんのお宅で、中川班の会をも
ちました。

参加者は、清水さん、田中さん、
渡名喜さん、栗本夫婦、そして武
藤(男)さんの六名。綾瀬訪問看護
ステーションの増田由美子看護師
さんが「訪問看護などについて」
お話をしてくれました。

この前の班会は、六月三十日
でしたので四ヶ月ぶりでした。始
めにそれぞれ自己紹介と近況など
を出し合いました。

渡名喜さんは「娘夫妻と孫二人
が近くにいる。かつて三ヶ月病院
と職場を往復して看護した。看護
できて良かった」。清水さんは「母
が九十一歳で同居、介護を始めて
三年になるが、要介護三で、かば
らデイサービスセンターで面倒を
みてもらっている」。田中さんは
「父を十年間介護した、大変だっ
たが良い経験だった」。栗本(男)も
う十三年も前だが、母が2階から
落ちて動けなくなり、病院に入院
したが入院がいやで退院し兄が介
護していた。兄も八年前になくな
った。武藤さんは、初めて参加者
したのでほとんどうなずいていま
した。

増田由美子看護師は「三月に主
任に就任した。三十歳すぎてから
看護師として勤務、私が思い出す
のは、二年目に男性を看護。その
男性は胃がんで一ヶ月もつかとい
う状況だったが、家に帰りたいと
いうので家に帰って、三週間で亡
くなったが家族が家で介護できた
と喜んでいて。良かったと思っ
ている」。などと話し、訪問看護の話
に入っていた。

「訪問看護とは」、ステーショ
ンの看護師が自宅を訪問して、看

護を必要とする人を支援します。排
便の世話・床ずれの予防や手当て、
リハビリ等の世話や相談をするこ
ともある。「どういう人が利用できる
の」と質問が出て、バイク事故、
神経に障害を持った人、主治医師
が認めた人などが利用できる。「ど
んな時に利用するのか」通院だけ
でなく、自宅で看護が受けられる、
要介護三だったら二万七千円ぐら
いだと思う。「どこに申請すればい
いの」まず介護認定を受けて、地
域包括センター、蒲原診療所に相
談することなど。

申請から、認定まで一ヶ月ぐら
いかかるが、ケアマネジャーに相談
すれば、申請時にさかのぼってで
きる。ことなどが話されました。

具合が悪くても、デイーサ
ービスに通所するのがいやだとい
う人も、「いつでも困った時には、
気軽に相談下さい。綾瀬訪問看
護ステーションにおいて下さい。」
とのこと。参加者から様々な
質問がだされ、良かったと皆さん
喜んでいました。

報告 栗本 哲男

新春のつどいのご案内
2月6日予定
演芸など出演者募集!